

平成28年度 第2回江東区外部評価委員会

平成28年7月19日（火）午前9時30分
江東区文化センター 6階 第1会議室

《 会 議 次 第 》

1. 開会
2. 施策18「地域で参加・還元できる生涯学習・スポーツの推進」
ヒアリング
- 休憩（5分程度） —
3. 施策30「ユニバーサルデザインのまちづくり」ヒアリング
4. その他
5. 閉会

【配付資料】

- ・ 委員名簿
- ・ 意見シート（施策18・30） ※外部評価モニターのみ
- ・ 出席職員名簿（施策18・30）
- ・ 席次表（施策18・30）
- ・ 施策実現に関する指標に係る現状値の推移（施策18・30）
- ・ 事業概要一覧（施策18・30）
- ・ 施策評価シート（施策18・30）
- ・ 行政評価（二次評価）結果への取り組み状況説明シート（施策18・30）

平成28年度外部評価委員会委員名簿(A班)

氏名	所属	分野
つかもと ひさお ◎ 塚本 壽雄	早稲田大学政治経済学術院長補佐 公共経営大学院専攻主任 教授	行政学 政策評価論
うえだ みどり 植田 みどり	国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部 総括研究官	教育 福祉
みやざわ まさやす 宮澤 正泰	習志野市会計管理者	公会計 行政全般

◎ : A班班長

外部評価モニター 《意見シート》

会議終了後、必要事項をご記入いただき、お帰りの際に係員にご提出ください。(当日の提出が難しい場合は、後日、メールやFAX等でご提出いただいても構いません。ただし、ご意見を事務局で取りまとめますので、委員会の翌日までにご提出願います。)

〔FAX〕 03-3699-8771
〔Eメール〕 kikaku@city.koto.lg.jp

氏名

施策番号

18

外部評価委員会のヒアリングをお聞きいただき、施策に対する区の様子についてどのような感想をもたれましたか？

S～Cのいずれかに「O」をし、評価の理由等を記入願います。

S	A	B	C
優れていると高く評価できる	良好である	やや不十分である	不十分であり、改善を要する

〔評価の理由、改善提案、一言コメントなど〕

自由意見 (その他ご意見などございましたらご記入ください。)

第2回江東区外部評価委員会（A班ヒアリング①） 出席職員名簿（案）

平成28年7月19日開催

【施策18】

	職 名	氏 名
◎	地域振興部長	谷 口 昭 生
	総務部参事（総務課長事務取扱）	長 尾 潔
○	地域振興部 文化観光課長	伊 藤 裕 之
	総務部 人権推進課長	犬 塚 錦
	地域振興部 スポーツ振興課長	佐 藤 祐 樹
	文化コミュニティ財団管理課長	西 谷 淳
	文化コミュニティ財団文化センター管理事務所長	市 村 克 典
	健康スポーツ公社事務局次長	加 藤 章 子
	福祉部 障害者支援課長	山 崎 岳
	教育委員会事務局 庶務課長	杉 田 幸 子
	教育委員会事務局 江東図書館長	保 谷 俊 幸
	地域振興部 スポーツ振興課スポーツ振興担当係長	古 賀 浩 之

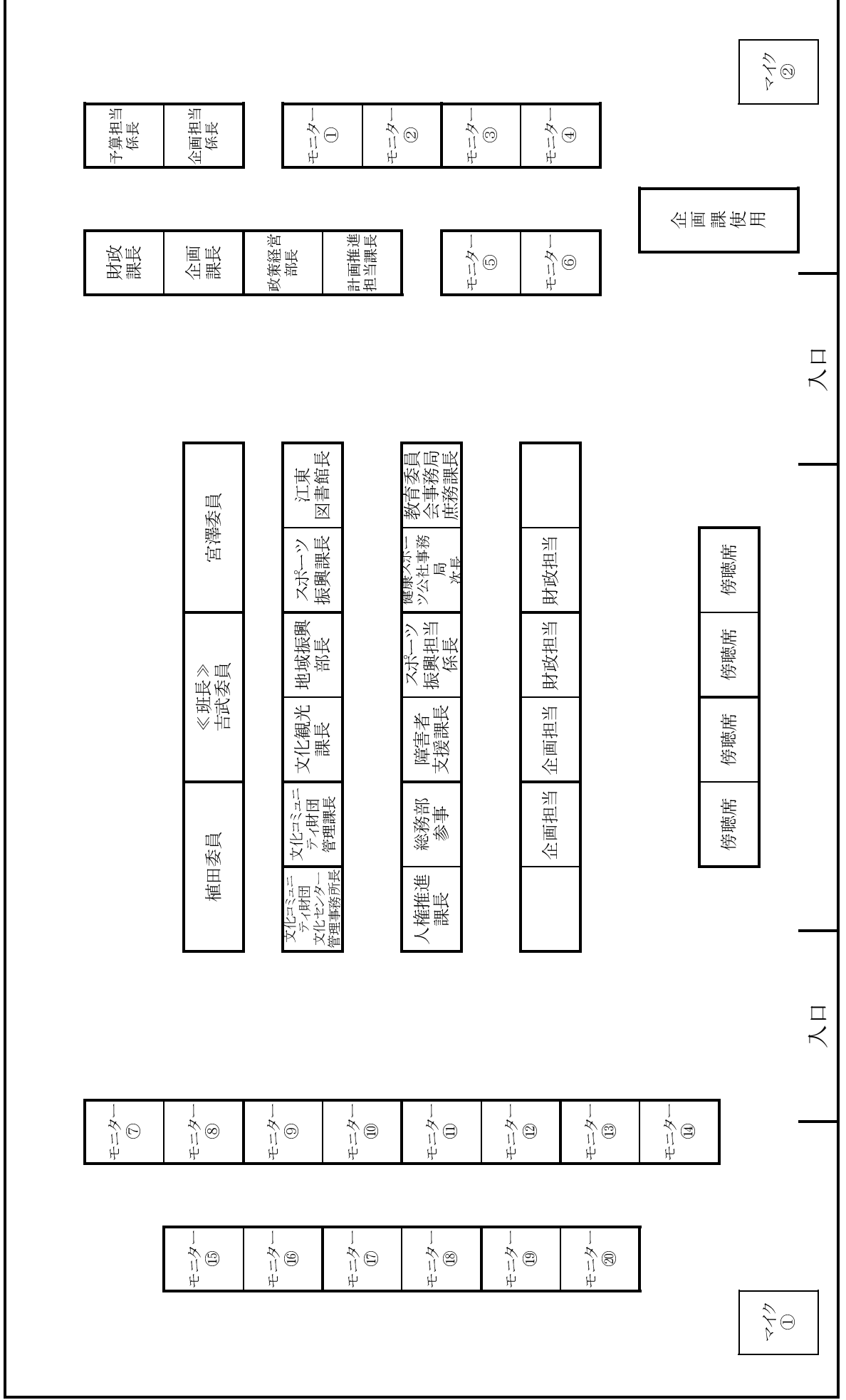
◎は主管部長、○は主管課長

【事務局】

	職 名	氏 名
—	政策経営部長	押 田 文 子
—	政策経営部 企画課長	武 田 正 孝
—	政策経営部 財政課長	武 越 信 昭
—	政策経営部 計画推進担当課長	日 野 幸 男

〔席次表〕 施策18

平成28年7月19日(火)
文化センター6階 第1会議室



施策実現に関する指標に係る現状値の推移（平成22～26年度）

※平成22～26年度の現状値は、長期計画（後期）策定時（平成27年3月）に判明していた数値

	長期計画（後期）における「施策実現に関する指標」	新規変更	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標値（26年度）	達成状況	目標値（31年度）	数値取得方法	指標担当課
			66	生涯学習・スポーツ活動に参加している区民の割合	17.5	18.8	19.5	16.8	16.6%	25%	25%	区民アンケート
67	図書館の利用者数（年間）	○	—	—	—	—	3,150千人	江東図書館	業務取得	江東図書館		
68	図書館資料貸出数（年間）		4,614	4,624	4,395	4,322	4,500千冊	5,250千冊	業務取得	江東図書館		
69	生涯学習・スポーツ活動の成果を地域や社会に活かしている区民の割合		13	14.3	14.1	12.7	11.7%	20%	20%	区民アンケート	文化観光課	

施策 18	地域で参加・還元できる生涯学習・スポーツの推進	主管部長(課)	地域振興部長(文化観光課)
		関係部長(課)	総務部長(総務課、人権推進課)、地域振興部長(スポーツ振興課、文化コミュニティ財団、健康スポーツ公社)、福祉部長(障害者支援課)、教育委員会事務局次長(庶務課、江東図書館)

1 施策が目指す江東区の姿
区民一人一人が主体的に生涯学習・スポーツに参加するとともに、習得した成果を地域の中で活かすことによって、健康で生き生きと暮らせる地域社会が形成されています。

2 施策を実現するための取り組み	
①誰もが参加できる生涯学習・スポーツ機会の提供	時代に合った学習メニューの充実や図書館における地域の読書活動推進、区内スポーツ施設を活用した教室事業などにより、多様な学習・スポーツの機会を提供していきます。また、施設の充実を図るとともに、区内大学、NPO、民間団体との連携を推進します。
②継続的な生涯学習・スポーツ活動への支援	生涯学習・スポーツ団体の育成や相互交流等を通して、継続的な活動に対する支援を充実させるとともに、オリンピック・パラリンピック開催に向けた一層のスポーツ振興を図ります。また、区民が自ら蓄積した知識・技能・経験などを地域に活かす仕組みづくりに取り組みます。

3-1 施策に影響を及ぼす環境変化(法改正・規制緩和・社会状況等)・区民要望・ニーズの変化	
5年前から現在まで	今後5年間の予測(このままだとどうなるか)
<ul style="list-style-type: none"> 文化・スポーツ施設の整備については、他自治体に比ベトトップクラスに位置しているが、人口増の著しい臨海部においてニーズが高まり、当該地域における文化・スポーツ施設の拡充が求められている。また、民間カルチャーセンターの進出が進んでいる。 退職を迎える世代は生涯学習を通じた地域社会との関わりを求めている。 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が決定した。 都では、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催やその先を見据えた今後の芸術文化振興における基本方針となる「東京文化ビジョン」を平成27年3月に策定した。 平成23年にスポーツ基本法が制定され、スポーツに関する基本理念等が規定された。これに基づき、区では今後のスポーツ振興の道すじを示す「江東区スポーツ推進計画」を平成27年3月に策定した。 図書館では、ライフスタイルの変化により、開館日や開館時間の拡大が求められている。また、IT機器の急速な普及により、インターネットやデータベース等を活用した利用者サービスの拡大が求められている。 国の「子どもの読書活動の推進計画」及び都の「第二次東京都子供読書活動推進計画」に基づき、平成28年3月に「第二次江東区子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動の充実に努めている。 都では、東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、国際都市にふさわしい人権が保障された都市を目指し、「東京都人権施策推進指針」を平成27年8月に新たに策定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習施設では、こどもから高齢者まで誰もが学べる学習環境の整備や施設の更なる効率的な活用が求められる。臨海部の人口増により、当該地域における文化・スポーツ施設の拡充が求められる。 行政が行う生涯学習の役割の明確化と民間カルチャーセンターとの棲み分け・連携が求められる。 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、ボランティアの育成や江東区の文化を発信していく取り組みが求められる。 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定に伴い、障害者スポーツを含むスポーツ全般に関する区民の興味・関心が高まる。 こども・高齢者人口の増加に伴い、体力向上や健康維持など、スポーツに求められるニーズが高まる。 図書館では、多様化する生活スタイルに対応するため、開館日数・時間の拡大やITサービスの拡充により、一層の利便性向上が求められる。また、地域特性を活かした特色あるサービスの提供が求められる。 こどもの読書活動推進のための場の拡大や機会の充実を図るために、図書館ボランティア等との連携が強く求められる。 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が契機となり、図書館ではオリンピック関係の資料の提供が求められる。 今まで以上に、誰もが幸せに暮らせるよう、お互いを思いやり、人権を尊重する社会を築いていくことが求められる。
3-2 国・都などの方針・基準等に基づき実施するため区の権限が限定的な事業	

4 施策実現に関する指標	単位	現状値 26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値 31年度	指標 担当課
66 生涯学習・スポーツ活動に参加している区民の割合	%	16.6	16.8					25	文化観光課
67 図書館の利用者数(年間)	千人	—	3,191					3,150	江東図書館
68 図書館資料貸出数(年間)	千冊	4,322 (25年度)	5,051					5,250	江東図書館

69	生涯学習・スポーツ活動の成果を地域や社会に活かしている区民の割合	%	11.7	11.5					20	文化観光課
----	----------------------------------	---	------	------	--	--	--	--	----	-------

※指標のうち、網掛けは長期計画（後期）から新たに追加、もしくは内容を変更したもの

【参考】26年度の指標値 指標68：4.638

5 施策コストの状況

	27年度予算	27年度決算(速報値)	28年度予算	29年度予算
トータルコスト	6,608,106千円	6,028,092千円	8,695,126千円	0千円
事業費	5,974,495千円	5,445,557千円	8,022,876千円	
人件費	633,611千円	582,535千円	672,250千円	

6 一次評価〈主管部長による評価〉

(1) 施策実現に関する指標の進展状況

【指標66】こどもから高齢者まで幅広い世代を対象とした講座を実施するとともに、民間カルチャーセンターにはない、地元商店街等と連携した地域理解講座などを実施しており、生涯学習・スポーツ活動に参加している区民の割合は若干増加した。引き続き、各年代ごとに幅広く魅力ある講座等を実施するとともに、施設休館の際には、利用者に他の施設を紹介するなど、きめ細かな対応を図っていく。

【指標67】図書館の利用者数は、平成27年度から把握することが可能になったため指標として採用しているが、豊洲図書館のリニューアルオープン効果や自動貸出機、返却機、予約受け取りコーナーの設置等、利用者の利便性が向上したことにより、目標値を達成することができた。

【指標68】平成27年度に蔵書数を増やしてリニューアルオープンした豊洲図書館や江東図書館、砂町図書館でも導入した自動貸出機、自動返却機、自動予約受取コーナー等利用者の利便性向上とサービスアップを図ったことによって、図書館資料の貸出数は平成26年度以降増加している。

【指標69】学習した成果など、区民の知識・経験を活かすため、区民自らが講師となる区民企画講座や区民協働講座などを実施してきたが、生涯学習・スポーツ活動の成果を地域や社会に活かしている区民の割合はほぼ横ばい傾向にある。2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、語学講座や地域理解講座を修了した受講生がボランティアとして活躍できるよう事業展開していく。引き続き講座等の内容を充実させるとともに、成果を発表できる場を確保していく。

(2) 施策における現状と課題

◆長期計画により目指すべき方向性は示されているが、区としての総体的な文化振興に係る基本方針の策定について、今後検討する必要がある。また、民間カルチャーセンターの進出により、行政との役割分担や協働・連携のあり方を整理する必要がある。◆区民の学習支援に関し、学習グループの高齢化による活力の減退が懸念される。また、退職を迎える世代の力を地域に活かすための仕組みづくりに取り組む必要がある。◆江東区スポーツ推進計画に掲げるスポーツ実施率（目標値概ね65%）向上の取り組みが必要である。◆スポーツ推進計画では『「元気な未来へ」Sports Garden 江東!』をキャッチフレーズとし、区のスポーツ振興を図っていく。具体的な展開としては、2020年東京オリンピック・パラリンピックの中心地としてのムーブメントの推進、水辺を活かしたスポーツ振興に取り組むほか、ライフステージに応じたスポーツ環境の創出、関係各主体との連携による地域活力の向上、場の確保等を通じて、江東区スポーツ推進計画の実現を図る必要がある。◆図書館の利用者は増加し、そのニーズは多様化、高度化している。区民の生活を支援し、生涯学習に資するため、ニーズに適応した一層のサービス向上が必要である。◆対面朗読サービスや音訳資料の作成といった図書館サービスの一部がボランティア等の参加により提供されているが、参加者の恒常的な確保や、新たなサービスの提供方法の確立に取り組む必要がある。◆2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、多くの外国人来訪者を受け入れる開催地として、生活習慣・文化・価値観などの多様性を尊重する社会を築いていくことが求められる。

(3) 今後5年間の施策の取り組みの方向性

◆文化振興に関する基本方針のあり方について検討する。◆民間の活力を活かしつつ、学習後の成果を区民が地域に還元する仕組みを確立し、参加区民の自主的活動を支援する取り組みを試行的に実施する。また、自主・自立的な学習支援について、現在行っている参加者募集や初年度の施設確保に加えて、利用団体をサポートしていく（グループサポート事業など）支援策を実施する。◆2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区民の参加機運が高まっていることから、先駆的な取り組みとして進めている「英語ボランティアガイド養成講座」や「おもてなし英会話」など、ボランティアの育成、語学講座の拡充を図る。◆学習成果を地域に還元し、学習者の生きがいにもつなげていく仕組みとして、リバーガイドや観光ガイド養成講座などを実施しているが、今後、退職後の世代の知識・経験を活かすことができるよう、区民が企画し、自らが講師となる区民企画講座を拡充するなど、退職者が地域と関わるきっかけとなる事業を推進していく。◆スポーツ実施率向上では、こどもや高齢者、子育て世代等幅広い層に対する事業展開を実施するほか、パラカヌー（障害者カヌー）振興や普及啓発事業の実施により障害者スポーツの振興に取り組む。◆スポーツ推進計画の実現に向け「江東区スポーツ推進連絡会」の開催等を通じて、スポーツ施設指定管理者や体育協会、スポーツ推進委員など様々な主体の役割分担のもと、効率的な事業展開を行う。◆「こども読書活動推進計画」の実施をはじめとした読書活動の推進にあたっては、ボランティアの活用を図りながら、各種関係施設との連携を図り、地域との協働による事業を推進する。◆地域の情報拠点として図書館機能を充実させ、地域特性に合わせた特色あるサービス展開による魅力ある図書館を目指す。図書館ボランティア等との協働や関係施設との連携を進め、地域に根ざした読書活動を推進する。施設計画、窓口サービス、ITシステムを有機的に連携したサービス強化を図る。◆多様化する利用者ニーズに向けて、効率的な図書館運営を図るため、施設的环境整備や様々な情報提供に対応できる体制づくりに取り組む。◆2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に関連し、国際理解だけでなく、障害者スポーツや各種競技種目、オリンピックやパラリンピアン等、広い視点で資料を収集していくとともに、大会終了後も資料の収集や公開に取り組む。◆2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、区民の知識と理解を深めるために、人権学習講座において、外国人の人権課題を取り上げる。◆平成28年度より新たに雑誌スポンサー制度を導入し、雑誌購入代の削減を図るとともに、地域企業の社会貢献に寄与する。◆自力で図書館に来館することが困難な方を対象に宅配サービスを平成28年度より実施し、サービスの拡充を行う。

施策 18	地域で参加・還元できる生涯学習・スポーツの推進	主管部長(課)	地域振興部長(文化観光課)
		関係部長(課)	総務部長(総務課、人権推進課)、地域振興部長(スポーツ振興課、文化コミュニティ財団、健康スポーツ公社)、福祉部長(障害者支援課)、教育委員会事務局次長(庶務課、江東図書館)

平成27年度 行政評価(二次評価)結果

- ・生涯学習やスポーツ振興に関して、区民のニーズや利用実態を十分に把握した上で、ニーズに対応した事業を展開するとともに、生涯学習やスポーツ活動に参加していない区民の参加を促すような仕組みについても検討する。【地域振興部】
- ・スポーツ推進計画に基づき、スポーツを支える各主体との連携を図り、明確な役割分担のもと、有機的・効果的な事業展開に努める。【地域振興部】
- ・団塊の世代の区民が、積極的に自らの知識や経験を地域で活かせる仕組みを検討する。【地域振興部】
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を契機とし、区民が様々なスポーツに親しむ機会を提供し、スポーツ実施率の向上に努める。【地域振興部】

《参考》 平成26年度 行政評価(二次評価)結果

- ・生涯学習やスポーツ振興に関して、区民のニーズや利用実態を十分に把握した上で、ニーズに対応した事業を展開するとともに、生涯学習やスポーツ活動に参加していない区民の参加を促すような仕組みについても検討する。【地域振興部】
- ・スポーツを支える各主体との連携を図り、明確な役割分担のもと、有機的・効果的な事業実施に努める。【地域振興部】
- ・団塊の世代の区民が、積極的に自らの知識や経験を地域で活かせる仕組みを検討する。【地域振興部】
- ・オリンピック・パラリンピック開催決定を機に、区民が様々なスポーツに親しむ機会を提供する。【地域振興部】

これまでの取り組み状況		
① 区民ニーズに対応した事業展開(スポーツ振興)		
取 り 組 み	スポーツセンターや屋外運動施設では、教室利用者アンケートや利用団体とのヒアリング、施設内ご意見箱に寄せられた意見等をもとに実施事業の組替や各種サービスの改善を行い、更なる利用率向上とサービスアップに努めている。また、スポーツセンターでは毎月1回「江東スポーツデー」として施設の区民無料公開を実施し、区民の体力向上とスポーツのきっかけづくりを行っている。	
	【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】
② 区民ニーズに対応した事業展開(だれもが参加しやすい講座の実施と生涯学習の推進)		
取 り 組 み	文化センターでは、事業の評価及び総括的な自己評価を行うとともに、講座受講生やイベント等参加者へのアンケートを定期的に行うことにより、区民の意見や要望を踏まえた講座を実施している。また、館まつりや地域交流事業等を通じ、地域住民に館や事業を知ってもらうきっかけ作りをしている。紹介パンフレットや学習情報紙等を定期的に発行し、公共施設のほか、金融機関や医療機関など、多くの人が利用する場所へも配布し、事業周知を図った。	
	【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】
③ スポーツを支える各主体との連携		
取 り 組 み	平成27年度より「江東区スポーツ推進連絡会」を設置した。体育協会やスポーツ推進委員会、地域スポーツクラブ等区内のスポーツ関係団体が一堂に会し、スポーツ振興にかかる現状と課題を共有しながら、意見交換を行っている。また、区民体育大会では平成28年度より屋外等開催競技(18競技)にかかる事務を江東区健康スポーツ公社へ移管した。	
	【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】
		区民体育大会事業(H28)、墨東五区競技大会事業(H28)
④ 団塊の世代が自らの知識や経験を地域に還元できる仕組みづくり		
取 り 組 み	団塊世代が生涯学習に参加するきっかけとして、団塊世代対象講座を31講座実施した。こうした講座を修了した受講生が、自主的な学習グループとして活動するにあたりハード・ソフトの両面から支援を行い、「区民が講師となる」「区民が講師とともに学習成果を上げる」など、区民が主体となる学習事業「区民企画講座」「区民協働講座」を実施したほか、ボランティアガイドを育成する講座も実施、観光ガイドとして地域に貢献できる人材育成をした。	
	【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】
⑤ 東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機としたスポーツの機会提供(オリンピック)		
取 り 組 み	毎年10月に実施している「こうとうこどもスポーツデー」における実施競技は応募事業者からの提案を含めて決定しているが、提案事業の中には2020年東京オリンピック大会の実施種目を含めることとし、オリンピックの開催機運醸成とスポーツに取り組むきっかけづくりとしている。	
	【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】

⑥ 東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機としたスポーツの機会提供(パラリンピック)

取 り 組 み	2020年東京パラリンピック大会の開催に向けて障害者スポーツの振興に注力している。競技振興の面では、障害者カヌー選手輩出のための指導委託を行うほか、国際大会への出場にかかる遠征費の一部負担を行う。障害者スポーツの振興ではパラカヌーの体験教室を実施するほか、(仮称)障害者スポーツフェスティバルの開催により障害者のスポーツ参加を促す。またこれらを支える人材を育成するため、初級障がい者スポーツ指導員養成講習会を開催する。	
	【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】
	区民スポーツ普及振興事業	

外部評価モニター 《意見シート》

会議終了後、必要事項をご記入いただき、お帰りの際に係員にご提出ください。(当日の提出が難しい場合は、後日、メールやFAX等でご提出いただいても構いません。ただし、ご意見を事務局で取りまとめますので、委員会の翌日までにご提出願います。)

〔FAX〕 03-3699-8771
〔外ハ〕 kikaku@city.koto.lg.jp

氏名

施策番号

30

外部評価委員会のヒアリングをお聞きいただき、施策に対する区の様子についてどのような感想をもたれましたか？

S～Cのいずれかに「O」をし、評価の理由等を記入願います。

S	A	B	C
優れていると高く評価できる	良好である	やや不十分である	不十分であり、改善を要する

〔評価の理由、改善提案、一言コメントなど〕

自由意見 (その他ご意見などございましたらご記入ください。)

第2回江東区外部評価委員会（A班ヒアリング①） 出席職員名簿（案）

平成28年7月19日開催

【施策30】

	職 名	氏 名
◎	都市整備部長	吉 川 甲 次
	土木部長	並 木 雅 登
○	都市整備部 まちづくり推進課長	草 深 玲 安
	土木部 河川公園課長	大 谷 友 彦
	土木部 交通対策課長	炭 谷 元 章
	都市整備部 まちづくり推進課 まちづくり担当係長	綾 瀬 邦 雄
	土木部 河川公園課 工事係長	中 川 富 弘

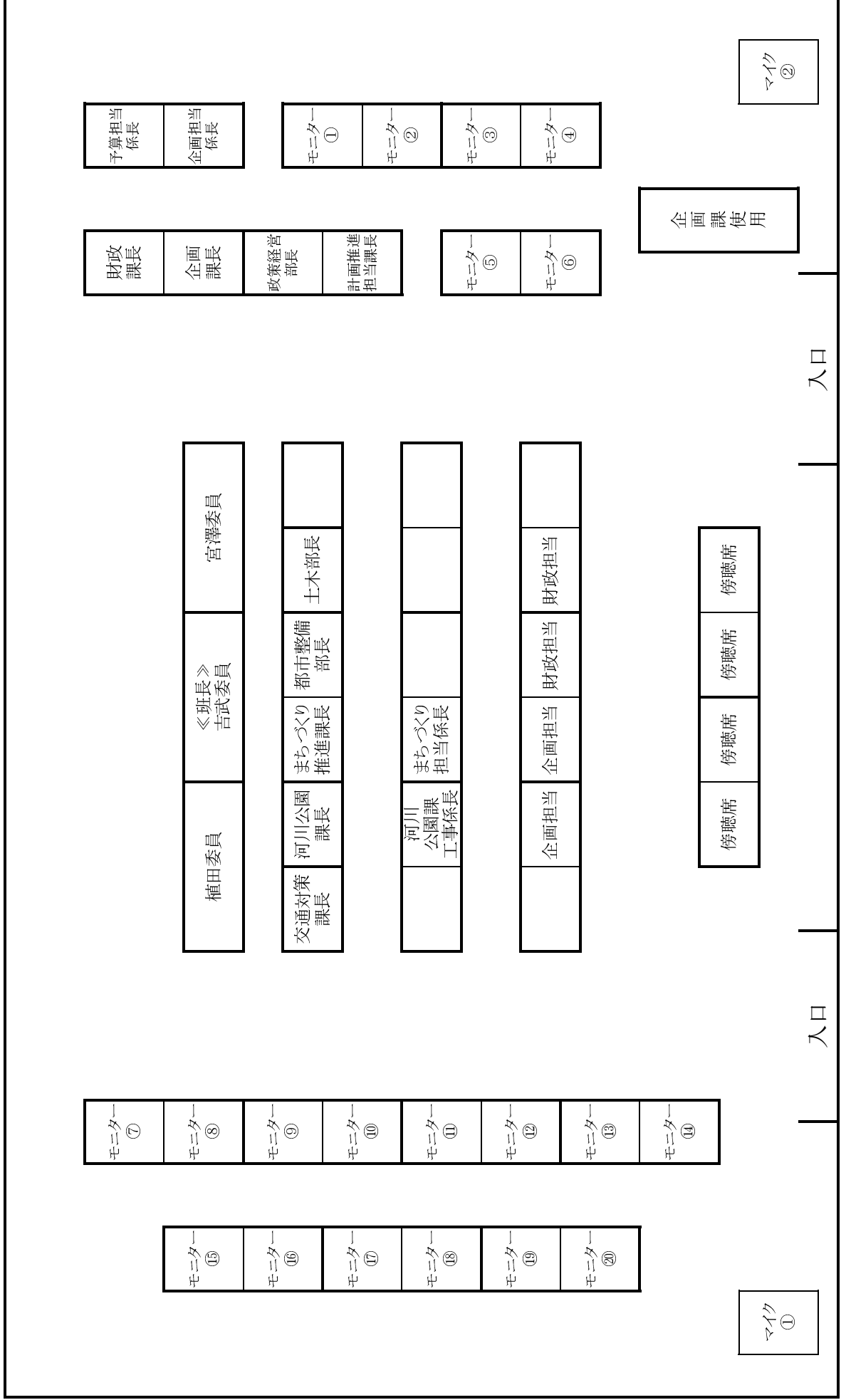
◎は主管部長、○は主管課長

【事務局】

	職 名	氏 名
—	政策経営部長	押 田 文 子
—	政策経営部 企画課長	武 田 正 孝
—	政策経営部 財政課長	武 越 信 昭
—	政策経営部 計画推進担当課長	日 野 幸 男

〔席次表〕 施策30

平成28年7月19日(火)
文化センター6階 第1会議室



モニター ⑦
モニター ⑧
モニター ⑨
モニター ⑩
モニター ⑪
モニター ⑫
モニター ⑬
モニター ⑭

モニター ⑮
モニター ⑯
モニター ⑰
モニター ⑱
モニター ⑲
モニター ⑳

予算担当係長
企画担当係長

モニター ①
モニター ②
モニター ③
モニター ④

財政課長
企画課長
政策経営部長
計画推進担当課長

モニター ⑤
モニター ⑥

企画課使用

マイク ②

マイク ①

植田委員
《班長》吉武委員
宮澤委員

交通対策課長
河川公園課長
まちづくり推進課長
都市整備部長
土木部長

河川公園課工事係長
まちづくり担当係長

企画担当
企画担当
財政担当
財政担当

傍聴席
傍聴席
傍聴席
傍聴席

入口

入口

施策実現に関する指標に係る現状値の推移（平成22～26年度）

※平成22～26年度の現状値は、長期計画（後期）策定時（平成27年3月）に判明していた数値

	長期計画（後期）における「施策実現に関する指標」	新規変更	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標値（26年度）	達成状況	目標値（31年度）	数値取得方法	指標担当課
119	ユニバーサルデザインの理念を理解している区民の割合	○	—	—	—	—	34.1%	—	△	60%	区民アンケート	まちづくり推進課
120	この1年間で、1人で出かけた際に障害物などで不便に感じた経験のある区民の割合		65.6	67.4	62.4	62.5	60.0%	40%		40%	区民アンケート	まちづくり推進課
121	福祉のまちづくり条例適合審査・指導件数		23	34	46	33	—	40件		40件	業務取得	まちづくり推進課
122	だれでもトイレの整備率	○	—	—	—	49	—	—	△	64%	業務取得	河川公園課

事業概要一覧（平成28年度 施策別）

※◆は主要ハード、♥は主要ソフト事業を表す

施策の細目	事務事業名称	28年度 予算額 (千円)	27年度 予算額 (千円)	前年比 増減	改善方向	事業概要
05住みよさを実感できる世界に誇れるまち	11快適な暮らしを支えるまちづくり	8,655,092	7,725,059	12.0%		
30ユニバーサルデザイン	3001ユニバーサルデザインに対する意識の啓発	6,133,916	4,964,353	23.6%		
	3002ユニバーサルデザインに関する考え方を広めるため、ワークショップの開催や小学校での出前講座等を実施。	89,150	52,984	68.3%		
	3001ユニバーサルデザインに関する考え方を広めるため、ワークショップの開催や小学校での出前講座等を実施。	5,640	5,507	2.4%		
♥1	ユニバーサルデザイン推進事業	5,640	5,507	2.4%	レベルアップ	ユニバーサルデザインに関する考え方を広めるため、ワークショップの開催や小学校での出前講座等を実施。 28年度は、小学校等での出前講座を年6回から8回へ拡充。
◆3002	誰もが利用しやすい社会基盤整備への誘導・支援	83,510	47,477	75.9%		
◆1	だれでもトイレ整備事業	50,030	44,030	13.6%	維持	老朽化が進んだ公衆便所の改修に合わせ、障害者、高齢者、妊婦、乳幼児を連れてくる親等が利用しやすい「だれでもトイレ」として整備。 整備箇所数:4か所
◆2	公衆便所洋式化事業	16,030	0	皆増	新規	31年度までにすべての公衆便所に洋式トイレを整備。 整備箇所数:15か所
3	ユニバーサルデザイン整備促進事業	1,618	3,447	△53.1%	維持	ユニバーサルデザインを基本とした福祉のまちづくり条例による助言・指導等。 視覚障害者のホーム転落防止対策として鉄道事業者が行う内方線付き点状ブロックの整備に要する費用を助成。
4	鉄道駅総合バリアフリー推進事業	15,832	0	皆増	新規	対象駅:りんかい線東京テレポート駅、JR京葉線潮見駅、東武亀戸線亀戸駅

施策 30	ユニバーサルデザインのまちづくり	主管部長(課)	都市整備部長(まちづくり推進課)
		関係部長(課)	土木部長(河川公園課、交通対策課)

1 施策が目指す江東区の姿

年齢・性別・国籍の違いや、障害の有無等にかかわらず誰もが公平かつ快適に生活できるまちづくりが進められています。

2 施策を実現するための取り組み

①ユニバーサルデザインに対する意識の啓発	ユニバーサルデザインに関する情報を積極的に発信するとともに、支えを必要とする人々との交流やふれあいの場を通して区民にユニバーサルデザインの考え方の理解が深まるよう努めます。また、小学校などで出前講座を実施し、手助けの行動につながる意識の定着を図ります。
②誰もが利用しやすい社会基盤整備への誘導・支援	民間の建築物等の建設・改築のときに、ユニバーサルデザインを基本とした福祉のまちづくり条例による助言・指導を的確に行うとともに、改修への支援を行います。また、整備後の施設へボランティア等の協力を得てユニバーサルデザインの検証を実施します。

3-1 施策に影響を及ぼす環境変化(法改正・規制緩和・社会状況等)・区民要望・ニーズの変化

5年前から現在まで	今後5年間の予測(このままだとどうなるか)
<ul style="list-style-type: none"> 急速な高齢化と人口増加に伴い、高齢者・障害者・外国人・子育て世帯等、支えを必要とする区民が増加している。 平成26年3月に東京都福祉のまちづくり推進計画(平成26～30年度)が策定され、ユニバーサルデザインの理念に基づく福祉のまちづくりが推進されている。 区民への更なるユニバーサルデザインのまちづくり概念の浸透が求められている。 誰もが安全で安心して利用できる総合的または連続的なバリアフリー・ユニバーサルデザインの整備が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間の建築物や公共施設の整備に伴い、バリアフリー・ユニバーサルデザイン化が更に進む。 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、江東区の湾岸エリアにユニバーサルデザインの視点に立った競技施設が多数新設される。また、国内外から多くの観光客が訪れることになるため、公共交通機関、競技施設、公園、道路などにおいて、ユニバーサルデザイン化された面的な整備が行われる。 外国人観光客の急増とICT技術の進展により、分かりやすい情報発信の仕組みが求められている。 今後一層、誰もが使いやすく安心して安全な環境をつくるユニバーサルデザインの考え方に基づくまちづくりが求められるため、ハード・ソフト両面からの整備を進める必要がある。 平成28年4月障害者差別解消法の施行に伴い、合理的配慮の提供が求められるため、適切に対応する必要がある。

3-2 国・都などの方針・基準等に基づき実施するため区の権限が限定的な事業

4 施策実現に関する指標	単位	現状値 26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値 31年度	指標 担当課
119 ユニバーサルデザインの理念を理解している区民の割合	%	34.1	32.5					60	まちづくり推進課
120 この1年間で、1人で出かけた際に障害物などで不便に感じた経験のある区民の割合	%	60.0	56.0					40	まちづくり推進課
121 福祉のまちづくり条例適合審査・指導件数	件	33 (25年度)	43					40	まちづくり推進課
122 だれでもトイレの整備率	%	49 (25年度)	53.9					64	河川公園課

※指標のうち、網掛けは長期計画(後期)から新たに追加、もしくは内容を変更したもの
【参考】26年度の指標値 指標121: 42 指標122: 51.8

5 施策コストの状況

	27年度予算	27年度決算(速報値)	28年度予算	29年度予算
トータルコスト	82,628千円	76,435千円	121,786千円	0千円
事業費	52,984千円	49,563千円	89,150千円	
人件費	29,644千円	26,872千円	32,636千円	

6 一次評価<< 主管部長による評価 >>

(1) 施策実現に関する指標の進展状況

【指標119】ユニバーサルデザインまちづくりワークショップや小学校への出前講座を展開し、支えを必要とする人々との交流やふれあいの場を設け努めてきたが、昨年度から1.6%減となってしまった。意識啓発の対象拡大が急務である。

【指標120】1人で出かけた際に障害物などで不便に感じた区民の割合の目標値は40%で、過去5年間は60～70%間の増減を繰り返していたが、平成27年度は初めて60%を切る結果となった。東京都福祉のまちづくり条例及び江東区やさしいまちづくり施設整備助成による民間建築物のユニバーサルデザイン化の指導・誘導など、引き続き目標達成に向けて強化していく。

【指標121】東京都福祉のまちづくり条例による施設整備の届出実績は、平成26年度以降目標値を上回る結果となっており、新築・増改築による建築物のユニバーサルデザイン化は進展している。

【指標122】毎年4～5箇所の公衆便所を計画的に改修し、成果は、順調に増加している。

(2) 施策における現状と課題

◆平成27年度は、障害当事者を含む区民40人と区職員14人の協働で、ユニバーサルデザインまちづくりワークショップを8回開催した。ワークショップでは、オリンピック・パラリンピック開催に向け、区内観光の誘導等を含め、亀戸地区、門前仲町地区等のまちあるきを行い、多様な視点からユニバーサルデザイン観光マップを作成した。オリンピック・パラリンピックを契機とした様々なテーマのワークショップを開催し、多くの区民の参加を募り、意識啓発を推進している。◆やさしいまちづくり相談員（障害当事者も含めた区民）主体による出前講座が定着しつつあり、平成27年度は、実施目標6校を大きく上回る区内小学校10校での実施につなげた。平成28年度は、小学校からの更なる要望に応えるため、長期計画（後期）の実施目標を6校から8校に増加した。また、今後は新たな相談員の育成など、体制の維持継続が課題である。◆東京都福祉のまちづくり条例に基づき、新築、改修される公衆便所を「だれでもトイレ」として、区内193箇所の公衆便所のうち平成27年度で104箇所整備、進捗率は53.9%と着実に整備が進んでいる。◆東京都福祉のまちづくり条例による施設整備の届出実績から新築・増改築による建築物のユニバーサルデザイン化は進んでいる。◆江東区やさしいまちづくり施設整備助成については、広報強化により昨年度を1件上回る3件の実績があがった。引き続き事業の広報強化に努める。◆鉄道駅におけるバリアフリーの推進を図るため、エレベータ等の整備助成を実施してきた。さらなるバリアフリー化に向け、助成対象の拡大について検討していく。

(3) 今後5年間の施策の取り組みの方向性

◆ユニバーサルデザインまちづくりワークショップについては、ユニバーサルデザインに対する意識の啓発を主な目的とし、これまでの活動内容をスパイラルアップさせていく。平成28年度は、区民に身近な商店街、信用金庫、民間企業を対象にしたユニバーサルデザインの意識啓発プログラムを検討、実施し、意識啓発の対象を更に拡大していく。同時に区内NPO団体等を活用した実施体制も検討していく。来年度以降も、多様な人々への必要な手助け（ボランティアなどによる人的サポート）等の検討、UD観光マップの事後評価、商店街等へ向けたコミュニケーション支援ボードの作成等を予定している。また、これまでの取り組み実績について、分かりやすい情報提供を行うことで、まちづくりにおけるユニバーサルデザインの意味と必要性について、ワークショップ参加者のみでなくより多くの区民の理解を深めていく。◆出前講座については、今後もやさしいまちづくり相談員が主体の実施体制を継続していく。実施校以外においても、活用ガイドと共にハンドブックとDVDを配布し、多くの児童にユニバーサルデザインを伝え、困っている人がいれば自然に手をさしのべる優しく思いやりのある心（心のUD）を育てていく。◆東京都福祉のまちづくり条例による施設整備の届出については、新築・増改築による建築物の適正なユニバーサルデザイン化を推進するために、引き続き指導・誘導を実施していく。◆既存の建築物のバリアフリー整備を助成する江東区やさしいまちづくり施設整備助成事業については、引き続き区報掲載やチラシ配布などで広報を実施するほか、福祉のまちづくり条例指導時の同時案内により広報強化し、助成実績拡大につなげ、着実に既存建築物のバリアフリー化を促進していく。◆鉄道駅のバリアフリー化については、ホーム上での視覚障害者の安全確保を図るため、内方線付き点状ブロック等の設置助成を行う。

施策 30	ユニバーサルデザインのまちづくり	主管部長(課)	都市整備部長(まちづくり推進課)
		関係部長(課)	土木部長(河川公園課、交通対策課)

平成27年度 行政評価(二次評価)結果

- ・まちづくりにおけるユニバーサルデザインの意味とその必要性に関し、区民へのより効果的な啓発手法を検討するとともに、取り組みの実績等について区民にわかりやすく情報提供を行う。【都市整備部】
- ・オリンピック・パラリンピック開催を見据えたユニバーサルデザインの事業展開について検討を行う。【都市整備部】
- ・民間建築物にユニバーサルデザインを普及させるために効果的なPR方法や支援方法を検討する。【都市整備部】

《参考》 平成26年度 行政評価(二次評価)結果

- ・まちづくりにおけるユニバーサルデザインの意味とその必要性に関し、区民へのより効果的な啓発手法を検討するとともに、取り組みの実績等について区民にわかりやすく情報提供を行う。【都市整備部】
- ・オリンピック・パラリンピック開催を見据えたユニバーサルデザインの事業展開について検討を行う。【都市整備部】
- ・民間建築物にユニバーサルデザインを普及させるために効果的なPR方法を検討する。【都市整備部】

これまでの取り組み状況					
① ユニバーサルデザイン(UD)の区民へのより効果的な啓発手法の検討					
取り組み	区内小学校児童にユニバーサルデザイン出前講座を開催し、困っている人がいれば自然に手をさしのべる、優しく思いやりのある心(心のUD)を育むことを目的に、児童やその家族へユニバーサルデザインの意識啓発を行っている。やさしいまちづくり相談員主体による実施体制が定着し、平成27年度はこれまでで最高実績となる10校で開催した。また、開催校以外にも、活用ガイドと共にハンドブックとDVDを配布した。平成28年度の公募区民によるワークショップでは、対象を拡大し成人向けの意識啓発方法について検討し、更なるユニバーサルデザインの普及・推進を図っていく。				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【新たな取り組みを行った事業】</th> <th>【見直した事業】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】		
【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】				
② ユニバーサルデザインの取り組みの実績等における区民への分かりやすい情報提供					
取り組み	出前講座については、取り組み内容や開催実績について区ホームページで周知している。				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【新たな取り組みを行った事業】</th> <th>【見直した事業】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】		
【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】				
③ オリンピック・パラリンピック開催を見据えた新たな事業展開への検討					
取り組み	オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、今後のワークショップでは、多様な人々への必要な手助け(ボランティアなどによる人的サポート)等の検討や、商店街等へ向けたコミュニケーション支援ボードの作成等を検討している。近年の技術開発により、情報提供の手法の幅も広がっているため、多言語対応等に関するICTの技術動向視察など、多様な人々がニーズに応じた必要な情報を容易に入手できる仕組みを情報バリアフリーの観点から調査・研究をしている。				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【新たな取り組みを行った事業】</th> <th>【見直した事業】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】		
【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】				
④ 民間建築物にユニバーサルデザインを普及させるための効果的なPR方法や支援方法の検討					
取り組み	東京都福祉のまちづくり条例に基づいた施設整備の届出・指導実績増から、新築及び増改築による建築物のユニバーサルデザイン化は進展している。更に、上乘せした努力基準に適合した建築物については、ホームページ上で紹介もしている。また、江東区やさしいまちづくり施設整備助成事業により、区民の誰もが安全で快適かつ容易に施設を利用できるよう、施設のバリアフリー改修を行う者に対して、その経費の一部を助成している。ホームページやチラシ、区報(年2回)掲載による広報強化により、毎年着実に民間建築物のユニバーサルデザインの普及に繋げている。				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【新たな取り組みを行った事業】</th> <th>【見直した事業】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】		
【新たな取り組みを行った事業】	【見直した事業】				